特別記事

九州放送機器展 2013

7月4日(木)～5日(金)、「九州放送機器展2013」(略称QBE2013)が一般社団法人日本ポストプロダクション協会(JPPA)九州支部の主催にて、福岡市博多区にある「福岡国際センター」で行われた。この九州放送機器展は2004年の第1回目の開催から数えて、本年で10回目となる。

会場となった「福岡国際センター」はJR博多駅や福岡国際空港から地下鉄やタクシーで約15～20分、福岡都市高速道路からも至近と交通の便の良い場所である博多湾に面した一大コンベンションセンターエリアの一角にあり、出展社も全国各地の各社から、また来場者は地元福岡のみならず、九州全域と中国・四国地方にも及ぶといった状況で、この催しが九州のみならず西日本地区を代表する放送機器展となっている事が伺える。

本年は建物の1階と2階の両フロアーを使い、正面入口からみて突き当たり中央にはカメラゾーンのステージがあり、例年この展示会の見所の1つとなっている。

大音量で行われるようなパフォーマンスはこのステージ1カ所のみに集中しており、そのステージを囲むようにパナソニック、ソニー、池上通信機、キヤノン、グラスバレーなどのカメラメーカーがカメラやスイッチャ、モニター類を展示し、その周辺に上記各社のブースを設置しているため、他の展示会にありがちな、各所のブース同士の音が場内で混ざり合うというような雑然とした雰囲気がなく、各所で行われる同様な展示会の手本にもなりうる落ち着いて閲覧できる上手い手法である。

本年のカメラステージでは、福岡の地元アイドルグループが登場。歌やダンスを披露し、メインステージ前では黒山の人だかりができるなど、会場を盛り上げるパフォーマンスが次々に繰り広げられた。さらに、ステージ上部には同展が10周年であることを伺わせる「10」の文字が大型のLEDにて表示されるなどPR面でも効果的で華やかなステージとなり、業界関係者以外の来場者にとっても観ていて楽しめる内容であった。

本年は、開期中に北九州地方の豪雨などがあり、近隣地区にて多大な被害が報告されたが、それにも拘らず来場者数は過去最多の2,275名(主催者発表)となった。

昨年8月末に山口県周南市にて実際に行われたものを再現した3Dプロジェクションマッピングを二階フロアにて紹介

開催に先立ち挨拶をしたJPPA会長 広岡淳利 氏

例年以上に盛大に行われたオープニングセレモニー

本年も様々なパフォーマンスが繰り広げられた中央奥に設けられたステージ

二階に設けられた撮影、照明ワークショップのスペース

朋　栄

会場入口中央付近のブースにて出展。6月に行われた東北映像機器展に続き、NAB 2013に出展した新製品を中心に、映像制作に役立つ多くの製品を出展した。

ファイルベースシステム関連製品では、素材管理システム(MAM)オプションを実装したLTOサーバ「LTS-50」を紹介。LTOを記録媒体としたアーカイブサーバにMAM(素材管理)オプションを新開発し、複数のLTOテープの素材管理をLTS-50だけで実現。検索、閲覧はWEBブラウザ経由で自在にアクセス。LTOオートローダとも簡単に連携が可能となった。

また、SSDの容量がアップしたMXFインジェスト&クリップサーバーの新製品「MBP-120SX/125SX」を展示。同製品は、インジェストソフトウェア「MCI-120」を実装するとAdobe Premiere Pro CCとの連携により取込み中の追いかけ編集が可能となる。さらに編集後の素材はノンリニアソフトウェア内のメニューから送出サーバとしても機能する「MBP-120SX/125SX」へファイル転送し、送出スタンバイまでのフローを簡略化。インジェストから編集、送出までのワークフローを展示した。

プロセッサ関連の新製品ではマルチチャネルシグナルプロセッサ「FA-1010」とデュアルチャネルシグナルプロセッサ「FA-9520」を紹介。「FA-1010」は、わずか1Uで10系統もの多チャネルプロセス処理が可能。ルータ、FS、カラコレ、ディレイ調整、クリーンスイッチなど、チャネル毎に別途設備する必要のあった様々な信号処理ユニットを1台に集約している。もう1つの新製品「FA-9520」は、全世界で高い評価を受けているマルチパーパスシグナルプロセッサ「FA-9500」をベースにデュアルチャネル化を実現している。

ビデオスイッチャでは、HD/SD 2M/E~3M/Eビデオスイッチャ「HVS-4000HSA」を出品。2M/E、2.5M/Eまたは3M/Eまで拡張可能なデジタルビデオスイッチャであり、HD/SD混在入力、2.5Dおよび3D DVE、マルチビューワ、マクロ、動画ファイルサポートなど、様々な機能を包括。また、外部機器との連携が可能なインターフェースや機能を多数実装。3Gbps対応オプションを実装すれば4K処理にも対応する。

また、ルーティングスイッチャ、マルチビューワ、モジュラ型ディスプレイなどを組み合わせ、サブシステムを意識したシステム展示を行った。

マルチビューワ・チェンジオーバースイッチャの新製品としては、HD/SD/アナログ混在対応マルチビューワ「MV-1620HS」を出品。1Uのコンパクトなフレームながら、レイアウトマネージャやネットワーク動画転送機能、アラーム等の信号を受けて映像を記録するレコーダ機能、タリー・タイトル・タイムコード表示など便利な機能を満載しており、デュアル出力オプション実装時には最大4台をカスケード接続することで最大64分割表示が可能である。

その他、モジュールタイプのチェンジオーバースイッチャー「UFM-80TSCS/80SDICS」や、専任スタッフを配置しなくてもRCG運用が可能な簡易RCGシステム「Smart Direct RCG」などを展示した。(写真右)

会場の中央入口付近にて出展した同社。正面にはルーティングスイッチャとビデオスイッチャなどを展示

LTS-50、LTR-100HSなどのアーカイブ製品が並んだ展示スペースは大勢の人が集まり注目の的となった。

キヤノン

本年のNABショーでは"DELIVER"をテーマに、フラッグシップモデル「EOS C500」をはじめ「C300」「C100」「EOS-1D C」といった充実のCINEMA EOS SYSTEMを披露し、レンズや周辺機器を含めたラインアップを紹介した同社であるが、本展でも同様に、CINEMA EOS SYSTEMを中心に総合展示を行った。

フラッグシップモデルである「EOS C500」は、4K/2K出力に対応したスーパー35mm相当のCMOSセンサーを搭載しており、ISO320～20000の高感度設計、機動力と拡張性の高いモジュール設計、多様なワークフローに対応、EFシネマレンズやEFレンズなど多彩なレンズが使用可能などの特長をもつ。

また、シリーズ最新モデルの「C100」は、『EOS C100がもたらす新しい制作現場のカタチ』と題してセミナールームにて講師を招いて紹介が行われた。

一方、業務用デジタルビデオカメラコーナーではハンドヘルドビデオカメラの新製品「XA25」を出品。コンパクトなデザインながら、基本性能は業務用機としての位置付けで、HDMIとHD-SDI端子を標準装備しているほか、光学20倍HDビデオレンズ、有効約291万画素の1/2.84型HD CMOS PROセンサー、DIGIC DV 4。キーコンポーネントの刷新により、画質と表現力がさらに向上するなどの特長をもっている。

CINEMA EOS SYSTEMの総合展示スペース

その他同コーナーでは「XF305」「XF105」なども出品した。(写真右上)

また放送業務用レンズでは、防振機能を搭載したHD対応95倍フィールドズームレンズ「DIGISUPER 95」や多彩な撮影条件に対応する新標準HDTV対応17倍ポータブルズームレンズ「HJ17ex6.2B」を展示紹介した。

そのほか、フルHDに対応した小型・軽量のカメラ一体型リモートコントロール パン・チルトヘッドの新製品「BU-42H」や屋内屋外兼用の新しいコンセプト製品である「XU-81」などを展示紹介。(写真右下)「BU-42H」はフルHD映像を撮影できる小型・軽量のカメラ一体型リモート雲台。フルHDに対応した高精細・高解像の映像出力が可能、HD-SDIをはじめとする多彩なインターフェースを標準搭載、高性能18倍オートフォーカスレンズを搭載などの特長をもつ製品である。

デジタルビデオコーナーでは新製品XA25をはじめ、XF305、XF105などを展示

また「XU-81」は、フルHD映像を撮影できる小型・軽量のカメラ一体型リモート雲台。フルHDに対応した高精細・高解像の映像出力が可能HD-SDIをはじめとする多彩なインターフェースを標準搭載、高性能18倍オートフォーカスレンズを搭載、既存の雲台システムの利用が可能な高い互換性などの特長をもつ。

ソニー

NAB SHOW 2013 にて "beyond definition" のテーマのもとに出展した機材・システムの中から新商品を中心に紹介。同社ブースと隣接したステージのカメラコーナーの双方にて製品の展示を行った。

NAB ショーでも注目を集めたマルチフォーマットポータブルカメラ「HDC-2500」や、CineAlta 4K カメラ「PMW-F55」を出品。NXCAM カムコーダー「NEX-FS700J」は+RAW 収録オプションとともに展示した。

またXDCAM シリーズは、10 月発売予定の新製品「PMW-300」を紹介したのをはじめ、HD422 レコーダー「PWM-1000」、メモリーカムコーダー「PMW-400」、XDCAM プロフェッショナルメディアステーション「XDCAM Station」などを紹介。

アーカイブ・ソリューションとしては、オプティカルディスク・アーカイブドライブユニット「ODS-D55U」、アーカイブマネジメントシステム「X-Disc Archive」を紹介。

このほか、放送・業務用有機EL モニター「BVM/PVM シリーズ」、ライブコンテンツプロデューサー（Anycast Touch）「AWS-750」、マルチフォーマットノンリニア制作システム「XPRI NS シリーズ」、デジタルワイヤレスパッケージ「DWZ シリーズ」などを出展した。

新製品 XDCAM メモリーカムコーダー『PMW-400』

今秋発売予定の XDCAM メモリーカムコーダー『PMW-300』

XDCAM マスター送出システムを参考出品した展示スペース▶

パナソニック

中央ステージの右側の広いスペースにて出展。2013NAB ショーで展示した「P2HD シリーズ」の新製品として4K LCD ビデオモニターなどを国内初出展。また、アーカイブソリューションや1.2GHz 帯ENG ワイヤレスシステム「RAMSA シリーズ」などの放送ソリューションも展示する。

「P2HD シリーズ」は、2/3 型220 万画素3MOS 搭載メモリーカードカメラレコーダー「AJ-PX5000G」と、4U ハーフラックサイズのメモリーカードレコーダー「AJ-PD500」を展示。

両製品は低ビットレートからマスターグレードをカバーする新放送用コーデック「AVC ウルトラ」ファミリーと、高速インタフェースSD メモリーカードでUHS-II 規格に準拠した新放送用半導体メディア「microP2 カード」に対応する。

そのほかファイルベース関連では、ファイル素材とテープ素材を一つにデータベース化し、再利用が容易な時短・省スペース・コスト削減に貢献するアーカイブシステム「プロフェッショナル・アーカイブシステム」を、デモを交えて紹介した。

AVC ULTRA ハンディ＆ポータブル

AVC-ULTRA、microP2、ネットワーク機能、新デュアルコーデック記録などの新技術を用いて高画質と低コスト運用を提供する、放送用カメラレコーダーの新基準。今秋発売予定のP2HD カメラレコーダ「AJ-PX5000」

メモリーカード・レコーダー「AJ-PD500」、「micro P2」「micro P2 カードアダプター」などの新製品を紹介

池上通信機

シームレスインテグレーションをテーマに、高品質な HDTV 番組制作から、送出までをトータルサポートする映像機器を展示。取材からスタジオ収録・編集・送出システムをトータルで提案した。

カメラでは、高画質マルチユースフラッグシップモデルのUnicam HD シリーズ「HDK-970A/970AP」「HDK-97A/97AP」をステージ前にて紹介したのをはじめ、従来のHDK シリーズを踏襲したグレードアップモデル「HDK-79GX」、シングルフォーマットでコストパフォーマンスに優れた「HDK-55」など。またブース内では超高感度カメラHDL シリーズの新製品「HDL-4500」「HDL45」を展示した。

モニターでは、OLED 17 インチと 25 インチモニタを参考出品したほか、マルチフォーマットLCD カラーモニタHLM シリーズの 3 連モニタ「HLM-5003WR」、2 連モニタ「HLM-7002WR」などを紹介。

そのほかの製品製品では、2M/E・3M/E ビデオスイッチャ「HSS-330」、マルチユース・デジタルFPU「PP-60」、小型デジタルFPU「PL-5SN、ミリ波HD 映像伝送装置「GL-60」、HD ドームカメラ「PCS-300HD」、異種映像フォーマット多重光ファイバ伝送装置を出品した。

さらに本年は、ファイルベースソリューションとして同社独自のアセットマネージメント技術を導入トータルファイルベースソリューションの「iSTEP+」（アイステッププラス）を紹介するなど、多彩な展示内容であった。

低照度下においても従来より一層鮮明になった超高感度 HDTV カラーカメラの新製品「HDL-4500」

ステージ前にて Unicam HD シリーズ「HDK-970A/970AP」「HDK-97A/97AP」などをデモ展示

「iSTEP+（アイステッププラス）」「Avid Media Composer」「Harmonic Media Center」を紹介したコーナー

ブラックマジックデザイン

今回で三度目の出展となる同社ブースでは、九州地方において、本年のNABにて発表された新製品の数々を初めてお披露目した。

同社製品は本年いち早くUltra HDと6G-SDIに対応したが、Ultra HD対応の新製品は、既存のSDやHDにも対応しており、すぐにUltra HDの必要がなくても、通常業務で活用することができる。また、最新の6G-SDIは、Ultra HD 4Kを1本のBNCケーブルで取り扱うことができ、シンプルなシステム構築が可能。製品自体も導入しやすい価格だが、必要なケーブルも少なくてすむため、システム全体でもコストを下げることができる。また、ブースでは4Kモニターにて、同社のUltra HD対応製品からの出力を確認するデモも行った。

これらに対応した主な製品は、プロダクションスイッチャーのATEM「Production Studio 4K」、ATEMスイッチャーと合わせて使用できる「Studio Converter 2」、SSDのレコーダーおよびプレーヤーの「HyperDeck Studio Pro」、デュアル・サブウーファーにより、高音質を実現した「Blackmagic Audio Monitor」等である。

またカメラでは、小さなボディながら13ストップのダイナミックレンジで美しいシネマルックを実現する「Blackmagic Pocket Cinema Camera」も実機を展示。出荷開始となった2.5Kセンサー搭載の「Blackmagic Cinema Camera (BMCC) MFT」モデルおよびEFモデルも合わせて展示された。

その他、先頃出荷開始となった、高性能コンバーター「Teranex 3D Processor」、スコープ表示機能の付いた、SmartView Duoの上位機種である「SmartScope Duo」、レギュラーサイズ、ロープロファイルの両方に対応したDeckLinkシリーズの新モデル、「DeckLink Mini Recorder」および「DeckLink Mini Monitor」、そしてプラグインのサポートや、編集機能を強化した、最新の「DaVinci Resolve 10」も出展するなど、昨年の同展での出展製品から比べてますます製品ラインナップが増えての出展となっていた。

ATEM「Production Studio 4K」、「Studio Converter 2」、「HyperDeck Studio Pro」、「Blackmagic Audio Monitor」などの4K対応製品を紹介したコーナー

「Blackmagic Cinema Camera MFT」及びレンズ、「Smart View Duo」「Teranex 3D Processor」などの製品群

Blackmagic Cinema Cameraは、2.5K（15.6mm × 8.8mm 2592 × 2192画素、カメラ本体の重量は1.7kg）の大型センサーを搭載したデジタルシネマカメラ。2.5K RAW（2432 × 1366）またはフルHD（1920x1080）解像度での撮影が行える。対応フレームレートは24/25/29.97/30fpsで、最大13ストップのスーパーワイド・ダイナミックレンジによって、劇場映画並みのルックとディテールを表現できると発表されている。

アストロデザイン

放送設備から編集設備までの幅広い製品ラインアップを出展。

新製品では高機能ラウドネスメーター「AM-3807」（写真左上）、字幕監視ラスタライザー「HW-7068」、デジタルマスター、ファイリング、編集室等で使用できるオーディオモニター群などの製品紹介と、IPDCサービスのシステム、放送バックアップ回線システム、非圧縮4K収録システムなどの紹介を同社ブース内にて行ったほか、パナソニックブースでは4K9.6インチ液晶モニタ「DM-3409」（写真左）を展示した。

4K撮影・中継をイメージした4Kシステムは、4K非圧縮SSDレコーダー「HR-7510」や有機EL1080ビューファインダー「DF-3512」などの製品を、デモを中心に提案。スカパーJSATの4K中継で使用した機材の紹介や、IPデータをTSに載せる技術と応用例について実機を用いて説明した。

4K非圧縮SSDレコーダー「HR-7510」や有機EL 1080ビューファインダー「DF-3512」などの展示スペース

DIGIspy
DIGITAL AUDIO TRANSMISSION ANALYZER
デジタルオーディオ伝送解析器

解析●Analyze
デジタルオーディオ伝送ライン・プロトコルの解析
ディスプレイ●Display
オーディオレベルのディスプレイ
モニター●Monitor
オーディオ信号のモニター

デジタルオーディオの伝送ラインが見える！

特徴
多機能
強　力
携帯性
簡単操作
低価格

一つのキー操作のみでいつどこでもデジタルオーディオ伝送ラインの最も重要なパラメーターを表示します。それがDIGIspyの基本設計です。
DIGIspyはIEC 958プロトコル・アナライザー、レベルメーター、ベクトルスコープを一つの画面上に表示します。ヘッドフォン用のモニター出力も取れます。
DIGIspyは96kHzまでのどのような標準サンプリング周波数の信号も処理できます。同軸ケーブルまたは光ファイバーを使用するS/P-DIFデータストリームと、AES/EBU信号のどちらも入力出来ます。
この小型軽量化により、DIGIspyは作業現場での測定器具として最適な計器です。また、バックライト式の大きなLCD画面は暗い場所でも読み取り易く、再充電なしに250もの個別測定が出来ます。

SCHMID electronic digital audio engineering
輸入販売元：エムアイテイー株式会社
Phone: (03) 3439-3755　e-mail: mit@mogami.com

タックシステム

NAB2013 にてAvid より発表された最新バージョンの「Avid Media Composer 7」と「Pro Tools 11」を同時初披露（写真上）。その他同社取り扱いの各製品も多数出展した。

注目は、Pro Tools HD または、最新のデジタルコンソールの周辺機器として脚光を浴びている豊富な MADI インターフェイスのラインナップを持つ Directout Technologies 社。1024x1024CH の膨大なマトリクス・ルーティングを実現する「M.1K2」（税込価格¥714,000 から）を中心に、コンソールや Pro Tools の IO としてフレキシブルな接続が可能なAD/DA MADI インターフェイス「ANDIAMO シリーズ」やMADI 回線チェッカーとして便利な「MA2CHBOX」などの1/3 ラックシリーズ、および新発売になった「ANDIAMO.MC」（税込価格¥1,029,000）を展示。

特に「ANDIAMO.MC」は、EIA2U のサイズに PC からUSB コントロール可能な32CH ものマイク・プリアンプとAD/DA および MADI 入出力を持つスペースファクター、コストパフォーマンスに優れた製品として話題を集めた。

また、RED カメラ用の23.976P ＞Psf 変換として多く使われているDecimator Design 社のミニ・コンバータ・シリーズも展示。新製品として3G/HD/SD-SDI と HDMI 双方の入出力を持つクロスレートコンバータ「MD-CROSS」を初めて展示した。「MD-CROSS」は従来のシリーズと同等の大きさの中にLCD 表示器と操作用のスイッチが実装され、ロケ現場などでの素早い設定変更が可能となっている。

そのほか、Pro Tools システムと共に、今後発売される次世代のMac Pro でのシステム化には必須となるMAGMA 社Thunderbolt シャーシ「Expressbox 3T」（3 スロット、税込市場予想価格¥144,900）や、Avid 社より新しく発表された比較的コンパクトなライブ用コンソール「S3L」およびWaves 社「SoundGrid」サーバーシステムも展示された。

注目の「Avid Media Composer 7」と「Pro Tools 11」

同社取扱いの新製品を紹介したブースでの展示▶

エーティコミュニケーションズ

同社では衛星通信機器の輸入販売から音響、映像、放送機器の輸入販売、また、放送中継車の設計・製造およびコンサルタント、スタジオ設備（サブ、マスター、編集室など）、映像・音響システムの設計・製作から通信衛星送受信サービス、通信機器レンタルなどの業務を行っているが、本展ではSWE-DISH の小型軽量衛星アンテナ「CCT-120」を搭載した日産エルグランドの衛星中継車とIPT スーツケースを屋外にて展示した。

同車両はドライバーと衛星通信オペレートがワンマンで行えるスマート・サテライト・ニューズ・ギャザリング車の後方ラックに iDirect 社エボリューション中継システムの子機となる端末も装備された仕様となっている。

フジフイルム

富士フィルム光学デバイス事業部は、東京を皮切りに５月から開催した「フジノン映像機器内覧会 2013」を、大阪、名古屋、仙台に続き、九州放送機器展内でも実施。今回の展示では、箱形高倍率レンズや 35 ミリ PL 軽量ズームレンズ「ZK3.5 × 85」をはじめとする PL レンズをはじめ、小型高倍率情報カメラシステム「シティサイト HD シリーズ」は、従来比50%となる 40 ワット低消費電力モデルを発表している。

また、世界初という光量を連続的に調整できる放送用光学フィルター「可変 ND フィルター FUJINON ND-P01」を紹介（写真右上）。同製品は、NHK 協力の下に開発した製品で、被写体の明るさの変化に応じて高品質な映像を提供、明暗のギャップが激しい撮影などで威力を発揮、カメラとレンズの間に取り付けるアダプター方式、などの特長を持つ。

そのほかブースでは、RFID（IC タグ）を用いて記録メディアや撮影機材を管理を容易にする「ディスク管理システム」の紹介も行った。

MOGAMI LAN CABLE

mogami

モガミ イーサネット ケーブル

Part No. 3306

敷設ー撤収を繰り返す可動的用途専用LANケーブル

PA/屋外使用等、敷設・撤収を繰り返す可動的な用途向けに特別に設計したイーサネットケーブルです。柔軟なため床に平らに引き回せ、通常のフィールドワークに耐える十分な機械的強度があります。特性値は TIA/EIA-568B Category 5e を完全に満足します。
RJ45コネクタとの接続に工夫が要りますので通常は両端にコネクタを付けた形で販売致します。受注時の長さは最大300mまで自由に指定出来ます。不具合発生時の無償修理保証期間は1年ですが、保証期間後も有償でコネクタの取り付けを致します。コネクタ付け替えに際してはその都度先端切り落とし部分の長さが短くなります。

お問い合せ エムアイテイー株式会社 PHONE : (03)3439-3755 E-MAIL : mit@mogami.com URL : http://www.mogami-wire.co.jp/

リーダー電子

「2013 NAB SHOW」にて、2つのアワードを受賞した4K対応のマルチ波形モニター「LV 5490」と新発売のファイルベースQCソリューション「FS 3140」を国内展示会では初出展したのをはじめ、オーディオモニター「LV 5838」、シンクジェネレータ「LT 4100」、TVシグナルモニター「LF 6800」など多数の新製品を出品した。

■「LV 5490」は、3G-SDIのクワッドリンクまたはデュアルリンクによる4K映像フォーマット(4096x2160、3840x2160)に対応するマルチ波形モニターで、4K映像の分割伝送方式は、「2-SAMPLE INTERLEAVE DIVISON」と「SQUARE DIVISION」の2方式に対応。

表示器は、フルHD解像度9インチサイズ液晶表示器を搭載しており、高品位ピクチャーモニターとしても使用可能であり、さらに3G-SDI信号の4入力同時表示も可能となっている。波形、ベクトル、ピクチャー、オーディオなどの表示領域を、USBマウスにより簡単に変更することができ、SDI出力端子とDVI出力端子を装備しているので、画面表示を外部フルHDモニターに表示することができる製品である。

■「FS 3140」は、コンテンツファイルのフォーマットチェックならびに品質検査(非参照型)を実施するファイルベースQCアプリケーション

4K対応マルチ波形モニター「LV 5490」

で、ファイルのコーデック構造チェック、映像のマクロブロックノイズチェック、音声のドロップアウト/無音チェックをはじめ、コンテンツファイルの品質管理のために多彩な検査項目が用意されている。

多彩な検査項目の中から、自由に項目を選択することができる設計となっており、選択した検査項目は、XMLでのインポート・エクスポートができるので、共有が可能である。また、問題点を容易に判別できるデザインのファイル(PDF、HTML双方)で、検査結果レポート出力するなどの機能を備えている。

■「LV 5838」は、オーディオコンソール、マスタ監視での仕様を想定したオーディオモニター。3G-SDI/HD-SDI/SD-SDI信号に重畳された音声信号、またはAES/EBU信号に対応している。さらに、ラウドネス表示やリサージュ表示、サラウンド表示、音声ステータス表示、レベル計表示を単独、または組み合わせて表示することが可能。

シンクジェネレータ「LT4100」、3G-SDI対応 ハイCPマルチモニター「LV5770」、オーディオモニター「LV5838」

■「LT 4100」は、HD / SD-SDI信号と6系統のアナログブラック信号を出力するシンクジェネレータ。HD(4フォーマット)とSD(2フォーマット)の両方式に対応している。さらに8チャンネル(4ch ×2グループ)のエンベデッドオーディオを重畳することができる。また、SDI出力のフォーマットと同系統のブラックバースト信号、または3値同期信号を出力することが可能である。

■「LF 6800」は、日本の地上デジタル放送、BSデジタル放送、CSデジタル放送、およびCATVデジタル放送に対応したチャンネル信号の測定装置。イーサーネットインタフェースを備えており、遠隔地におけるTV信号品質の監視や、信号品質が悪化した場合に異常の発生をPCに通知することができる。

Grass Valley

収録から送出までのソリューションを紹介した同社では、ノンリニア編集システム新製品「EDIUS Pro7」、ノンリニアライブプロダクションセンター「GV Director」などを初公開したほか、ターンキーシステム「HDWS GS Elite」、ディスクレコーダー「T2」、共有サーバー「K2-SAN」、アセットマネジメントシステム「STRATUS」などともに出品。同社製品で構築できるメリットを前面PRしたブースを展開した。

「EDIUS Pro7」は、64bitネイティブのアプリケーションとなり、使用可能なメモリ空間が増え、一方では分散処理によりデコード処理を複数同時処理できるため従来のEDIUS Pro 6.5に比べ最大7倍の高速処理を実現している。またXAVCやAVC-Ultraコーデックに対応し、本格的な4K編集までもが可能になっている。

EDIUS Pro7をHDWS GS Eliteに組込んで紹介

そのほか最新CPUへの最適化、拡張命令への対応など、随所に高速化が図られたバージョンアップだといえる。操作性の面では今までのバージョンを引き継いでおり、違和感なく操作出来るが、従来にはなかったエフェクトに新機能「ガウシアンブラー」を搭載。高品位なボカシができるようになった。これにより、X軸、Y軸で効果レベルを変更できるので、これまではできなかったテロップの文字方向のみのボカシフェードができるようになる。

また、もうひとつの新製品である「GV Director」は、コンパクトながらライブ制作に必要な機能をオールインワンにした製品で、ボタンとTバーという従来のスイッチャーの使い方とともに、タッチパネル上でコントロールが可能になっている。

オタリテック

同社では、映像・音声・同期・インカムなど多種多彩な信号の光ファイバー・ルーティングを可能にしたドイツのRIEDEL社のリアルタイム光ネットワークシステムMEDIORNETをメインに、オタリ「CB-195」Lightwinder CWDM UNITを参考出品したほか、英国XTA Electronics社の新製品、「DS8000」などの各社製品を紹介した。

光ファイバーを用いたインカムと音声のルーティング・ソリューションのパイオニアであるRIEDEL社の「MEDIORNET」は、3G/HD/SD-SDIビデオ信号・オーディオ・データ・インカムの光伝送システムであり、①多様なネットワーク・トポロジー形態に対応。②CWDMによる光多重伝送。③非圧縮リアルタイム伝送&ルーティング。サードパーティ製ルーター制御をサポート。④信号処理と変換機能を統合。⑤オート・リルート機能など不具合発生時に備えた二重化機能を搭載。⑥柔軟な拡張性を備えたプラットフォームなど、卓越した様々な特徴をもつ。

一方、同展にて参考出品したオタリ「CB-195」Lightwinder CWDM UNITはオタリLWBコメンタリーシステム「LWB-16M/LWB-64」に光パッチコードで接続する波長多重拡張ユニットで、①1つのLWBシステムで8映像や、6映像+イーサネットの伝送を可能にする。②奥行きはLWB-16Mと同じでファン付きとなっており、LWB-16Mに載せて使用できる。③4波長多重×2という構成のため、異なる8波のモジュールを用意する必要がない。④電源（2重化仕様）、入力信号、ファン（アラーム）の状態をはLEDで確認できる設計となっている。

また、XTA Electronics社の「DS8000」は、アクティブ・ディストリビューション・システムのベストセラー「DS800」の後継機で、2Uサイズの筐体に8in/32outのマイク/ライン・ディストリビューション・システムを備えており、ユーザーからのフィードバックを考慮しつつDS800を徹底的に再設計し、音響・照明・舞台等の技術への優れた功績に与えられるGottelier賞に輝くアレックス・クーパー氏の新設計による高性能マイク・プリアンプを搭載している。

さらにインプットのグランド・リフト・スイッチを搭載、背面のスイッチで自由にディストリビューションを変更することが可能となった。また、ソロ・バス・ラインを新設し、ヘッドホンを差し替えることなくモニターすることができ、バックアップを可能にするデュアル電源も採用している。

■OTARI LWBコメンタリーシステム：LWB-16M/LWB-64に専用のモジュールを装着し、コメンタリー・ボックスを接続することによって、LWBシステムにコメンタリー及びコミュニケーションの機能を追加するもので、これまで中継現場の音声と映像を中継車に集めるのに使われていたLWBユニットが、放送席のアナウンサーやゲストや解説者の声も中継車へ伝送できるようになる。

RIEDEL社の「MEDIORNET」をメインに紹介

新製品XTA Electronics社の「DS8000」

LWB-16Mの上部に設置して参考出品したCB-195▶

ヒビノ

■ヒビノでは、本年1月より発売を開始したSoundcraft(サウンドクラフト)のデジタル・ミキサー"Si Performer"を出品(写真左)。定評あるSoundcraft製デジタル・ミキサーの、アナログ・ミキサーのような優れた操作性とデジタルならではの多彩な機能はそのままに、DSPの処理能力を大幅に高めたモデル。より多くの信号を、より柔軟に扱えるため、中規模の会場や複雑なシステムにも十分対応できる。また、VCAグループや照明機器(DMX)のコントロール機能も新たに追加され、様々なシーンで活躍が可能である。

そのほか同社では、新製品のワイヤレス対応ボーカル・マイクロホン「d:facto Ⅱ、ディファクト」、PA/ライヴステージに最適な楽器用マイクロホン「d:vote、ディボート」、小型ヘッドセット・マイクロホン「d:fine、ディファイン」などを展示した。

■ヒビノインターサウンドでは、CALRECのデジタルミキシングコンソール「ARTEMIS」を出品。Bluefin 2 DSPを搭載しており、最高峰のAPOLLO同様の能力をコンパクトに搭載した放送用デジタルミキシングコンソール。

①最大プロセッシング数は640チャンネル。②メインまたはグループ出力が使用可能な128系統のプログラムバス。メイン出力：最大16系統(ステレオまたは5.1chサラウンドメインバスで構成)／グループ出力：最大48系統(モノラル、ステレオまたは5.1サラウンドグループバスで構成)。④64系統のマルチトラック／IFBバス。⑤32系統のAUXバス。などのスペックをもつ。

ストロベリー・メディアアーツ

独自開発によるSLIT VISIONシリーズLEDで常に先端をいく同社では、同社が誇る高精細LEDを使用したSLIT VISIONシリーズと、同社の独自開発による特殊コーティングを施したBlack Holeシリーズをリリース。会場エントランスホールの展示スペースのほか、ステージ脇の大型モニタも同社が設置するなど、本展示会とタイアップした展示方法を行っている。

会場入口脇のブースで展示したSLIT VISION

エントランス付近のブースでは、屋内仕様の「BH3.9i」(3.9mmピッチ)、フロアーLEDディスプレイ(10mmピッチ)をそれぞれ参考出品したほか、屋内外両用の「SV9Bio」(9.375mmピッチ)を展示した。また、ステージ上で飾られた本展開催10周年の『10』の文字も「SV9Bio」を用いて行われた。

例年はステージ左右に大型モニタを設置しているが、本年は10周年となった事を大きく浮かび上がらせる「10」の文字を上部上部に設置した

上記のモデルはロングセラーになっている「Black Hole9」および「SV18」「SV15B」の後継シリーズとして新たに打ち出しているシリーズで同社独自のブラックコーティングはもちろんのこと、NICHIA製最新LEDを採用し、高精細、軽量化、高効率のさらなる追求をめざしたモデルになっている。

また今回は参考出展ということで3.9mmピッチの高精細モデルのほか、以前から要望が多かったフロアーLEDディスプレイも展示し、様々なニーズに対応出来うる豊富なラインナップでの展示を行った。

東通インターナショナル

Miranda 社のマルチビューワ「Kaleido X16」を中心として、各種ビデオ / オーディオコンバータ / 分配器「Densite」、コンパクトルーティングスイッチャー「CR シリーズ」、RENEGADE 社のオーディオミキサー「Gray M16」、キャラクタージェネレータ「Avid Motion Graphic」など、同社の各種定番製品を出品した。

Miranda 社「Kaleido X16」「Densite」「CR シリーズ」でのシステム展示コーナー

Miranda「Kaleido X16」は、①異なるフォーマットやアスペクトの映像を高画質でモニタ出力。② 1U サイズのフレームで 16 入力、2 HDMI 出力 +2 HD-SDI 出力オプション (2 出力タイプ)。③入力可能フォーマットは 3G/HD/SD-SDI、アナログコンポジット。④入力映像は自由なサイズをいくつでも表示させることが可能。⑤オプションにより 3D 表示が可能で、デュアルリンクと 3G Level-B 入力に対応し、ライン by ライン出力する。⑥ DVI と MPEG 入力は変換オプションを使用。⑦ Nvision ルーティングスイッチャーと連携運用 (デバイス名を利用した UMD 表示、Kaleido からのルーター制御)。⑧入力ビデオの評価・アラーム表示 (範囲設定可能なフリーズ・ブラック・過輝度・無音・位相・オーバーロード検知)。⑨クローズドキャプション表示オプション
ビルトイン 16x2 ルーティングスイッチャーオプション（Nvision コントロールシステムからも制御可能)。⑩種々の付加表示 (タリー、ボーダー、UMD 座布団の変色、ラッチ)。などの特長をもった製品である。

一方 Avid のキャラクタージェネレータ「Avid Motion Graphic」は、Avid Technologies 社の、次世代キャラクタージェネレーター /CG ソリューションで、リアルタイム 2D/3D レンダリングエンジンと最新の GPU テクノロジーを搭載した新プラットフォームの採用により、文字の生成からフル 3D アニメーションまで、印象に残る美しいイメージを創作することができる。さらに Deko アプリケーションを同一プラットフォームで使用できるので、高品質な 3D グラフィックスと迅速なテロップ作成を AMG に共存させることが可能となっている。

ビデオサービス

撮影用機材のレンタル業務を中心としている同社では、例年各所の展示会にて人気の高い話題のカメラをシネスタイルにして紹介しているが、本年はそのような中でも変わった製品を紹介していた。

高度な色調整を現場で行うことを可能にしたデジタル映像撮影現場向け色管理システム、フジフイルムの「イメージプロセシングシステム IS-100」がそれで、アメリカの映画芸術科学アカデミー策定の "ACES 規格" に初めて準拠したという製品であるという。

劇場スクリーンで映し出される色を撮影現場のモニターで正確に表示し、iPad をコントローラーにした直感的なタッチパネル操作で映像の色味や彩度、コントラストなどを簡単に調整可能。撮影現場で高精度なプレビューをモニターで確認しながら色調整作業を可能にしたシステムである。

ヴィンテン・ジャパン／ザハトラー・ジャパン

三脚・ペデスタル製品の著名ブランドであるヴィンテンジャパン㈱とザハトラー・ジャパン㈱はヴィンテンジャパン㈱を存続会社として合併することとなり、平成 25 年8月1日よりヴィンテンジャパン㈱は**ヴァイテックビデオコム㈱**として商号を変更することとなった。

今般の合併は、三脚・ペデスタル製品は元より、ヴァイテックビデオコムグループの様々な機材を一元的に提供する総合プロバイダーとしてユーザーのさらなる発展に大きく貢献していく。なお、ブランドとしての Vinten および Sachtler はどちらも変わらず継続していく方針である。

本年の同展ブースにおいては、カメラメーカー各社製品の小型軽量化に伴った新製品 パン&チルトヘッド「ヴィジョン blue」のうちシリーズで 3 番目となる最新モデル「ヴィジョン blue3」、小型パン & チルトのカメラシステム「Q-ball」、中小型スタジオ用にコンパクトに設計された「クアトロ SL」を中心に紹介。

「ヴィジョン blue」は、最新の小型軽量カムコーダーやデジタル一眼レフカメラ用の本格的なカメラサポートシステム「完全バランスシステム」を採用しており、低めの重心高の小型軽量カメラ向けに設計されたパン&チルトヘッドで、Vision シリーズ独自の LF ドラッグ技術や青色 LED 照明付きの水準器なども装備している。

VITEC Videocom

ヴァイテック ビデオコム株式会社
〒105-0011 東京都港区芝公園3-1-38 芝公園三丁目ビル1F
TEL:03-5777-8040　FAX:03-5777-8041

関西営業所
〒531-0072 大阪市北区豊崎5-2-13
TEL:06-6359-2440　FAX:06-6359-2441

E-mail:japan@vitecgroup.com

STUDER

スチューダー・ジャパンーブロードキャスト㈱では、従来からのSTUDER製品の代理店業務のほか、映像システム部においてGrass Valley製品、NTTエレクトロニクス製品の代理店業務及び映像システム設計業務も行い、時代に合わせた最良な映像と音声のソリューションを提供している。

本展においてはSTUDERミキシングコンソールVISTAシリーズの新製品「VISTA 1 Compact」を紹介したほか、GV社製品では新CMOSカメラ「LDXシリーズ」、NEL社のH.264 IPエンコーダ「MV5000シリーズ」、RTSoftware社の「tOG-SPORTS」などの新製品も一同に介して紹介した。

VISTAシリーズの最新作である「**VISTA 1 Compact**」は、単体筐体内にコントロールサーフェイス、入出力コネクタ、DSPと従来分離されていた要素が一体化されており、「コンパクト」の名の通り小型化、軽量化されている。また、同製品は回線数がある程度決まっているニュースルーム等のシステムや、コンパクト性を最大限に利用した中継卓、可搬卓としても最適な仕様となっている。

VISTAシリーズの新製品、「VISTA 1 Compact」

さらに、処理能力と入出力を限定した事により、価格面でも劇的なダウンサイジングを実現した注目の新製品である。

一方、同展初登場のGrass ValleyのCMOSカメラ「**LDXシリーズ**」は、新たにカスタム設計したXensium-FT 2/3型CMOSイメージセンサーにより、驚異的な画質を提供する製品であり、同社の卓越したイメージデバイス開発チームが新型Xensium-FT CMOSイメージセンサーを設計し、感度を大幅に向上させると共に、アーチファクトのない撮影を可能にしている。

その他、GV社の映像関連機材の製品では、ノンリニア編集システム「HDWS 3G Elite」、ディスクレコーダー「T2」、リプレイシステム「K2 DynoS」などを紹介したほか、RT Software & Grass Valleyスポーツ用ライブイベント中継システムとしてRT Software「**tOG Sports**」をデモ展示。同製品は、RT Software社とのパートナーシップによるスポーツ用のグラフィックス合成・表示ソフトで、「K2 Summit」「K2 Dyno」と組み合わせたライブイベント中継用システムである。

また NTTエレクトロニクス(NEL)製品ではAVC/H.264 IPエンコーダー「**MV5000シリーズ**」を紹介。同製品は、NELの高画質ワンチップLSIを搭載しており、多様化するIP回線でHD映像を高画質かつ低遅延で伝送できる。

ノンリニア編集システム「HDWS 3G Elite」、ディスクレコーダー「T2」、リプレイシステム「K2 DynoS」などのシステムによるデモ展示コーナー

Grass Valley 新CMOSカメラ LDXシリーズ
(LDX Premiere, LDX Elite, LDX WorldCam)

<カメラ>
- 撮像素子：3×2/3型 Xensium-FT CMOS
- 有効画素数：1920×1080
- シャッタースピード：最小1/1000秒

<ビデオモード>
- 選択可能：1080 i 50/59.94/60、720p 50/59.94/60
- アスペクト比：16:9
- S/N比：60db (Typical)

また、カメラやセンサーなどの遠隔機器制御に対応するRS-232Cパススルー機能により、監視ソリューション用途にも適している。

コスミックエンジニアリング

業界初の**軽四輪HDTV中継車「オートキャリー」**を展示紹介。

屋外での中継と、車載システムを共用できるようにミニラックにまとめた可搬型フルHDスタジオサブシステムで、特に車両の改造はしないため、中継等で使用しない時は機材を降ろせば通常の貨物車として使用できるという設計で、予算に応じて自由な組み合わせができ、しかも軽量・コンパクト・低価格のため、「SCA」を中心としたフルHD番組制作支援システムとしての活用が期待できる。

そのほか、リアルタイム3Dキャラクタジェネレータ「PX3D HQ」、ラウドネスメーター、BON社製モニターなどを展示した。

nevion

Where video is moving

FIBER,IP, SONET/SDH, ROUTING & SIGNAL PROCESSING

Flashlink 省電力・省スペース・高信頼

CWDM 18ch/DWDM 40ch 波長多重伝送オプティカルI/O・EDFA光アンプ・3GHD/AVマルチ・フレームシンク・UP/D/Xコンバータ・分配・SDI TDM多重・3GHD-SDI・ASI・AES/EBU・RS422・10/100/1000/10G Ethernet・Lバンド RFシグナル・web GUIリモートモニタリング・SNMP

製造元：
Nevion AS

輸入販売元：
ネットワークエレクトロニクスジャパン 株式会社 ●TEL:03-5542-3260 ●FAX: 03-3552-5070 ●http://www.network-electronics.co.jp

ヤマハ

同展での注目の的は何といってもポストプロダクションDAWシステム「NUAGE」。同社とSteinberg社とのコラボレーションによって誕生した業務制作の次世代型システムソリューションで、昨年のInterBEEや本年のNABにおいても開期中のデモンストレーションで連日黒山の人だかりが出来た製品である。

その「NUAGE」は、専用のDSPカードを必要としないネイティブプロセッシング技術による音質クオリティの高さや生産性を高め創造性を引き出す編集機能などで定評のあるSteinberg社のDAWソフトウエア「NUENDO」と、高い信頼性と直感的な操作性が評価されてきたデジタルミキサーをはじめとする同社のハードウェアとが融合した、次世代型のシステムソリューション。

音楽録音、映画、ドラマ、テレビ番組の制作など、大規模MAスタジオや録音スタジオから小規模プロジェクトスタジオまで、さまざまなアプリケーションでの要求に応える製品である。

『NUAGE』のシステムは、DAWソフトウェア「NUENDO 6」を核として、コントロールサーフェス『NUAGE Master』『NUAGE Fader』、オーディオインターフェース『NUAGE I/O』、ワークスペースユニット『NUAGE Workspace』などのコンポーネントから構成される。また、Audinate社の「Dante」ネットワークシステムの採用により、『NUAGE』のコンポーネントの組み合わせだけでなく、デジタルミキシングコンソール「CLシリーズ」やI/Oラック「Rioシリーズ」などとの組み合わせなど、柔軟なシステム拡張性も確保している。(写真右上)

一方デジタルミキシングコンソール『CLシリーズ』では昨年春より続々と登場したのうち、同展では「CL3」を展示。規模や目的に合わせ柔軟なシステム構築が可能な3モデルとI/Oラックで、「Centralogic」を核に音楽的な音作りからライブレコーディングまで対応しており、音質、操作性、信頼性のすべてにおいて大きく進化した次世代ミキサーである。

そのほかスピーカー及び関連製品では、本年1月発売のNEXOスピーカーシステム「STMシリーズ」、2月発売のパワードTDコントローラー「NXAMP」などで、同シリーズには今回新たに、フルレンジのメインモジュール「STM M46」と中低域を拡張するベースモジュール「STM B112」、超低域を拡張するサブベースモジュール「STM B118」が加わっている。

昨年秋のInterBEEにて華々しくデビューした「NUAGE」

昨年春より続々と登場したデジタルミキシングコンソール『CLシリーズ』。展示製品は「CL3」

ローランド

新製品として本年10月に発売する省スペースのマルチフォーマットAVミキサー「VR-50HD」やロスレス変換の小型高品質コンバーター「VCシリーズ」などを紹介。

マルチフォーマットAVミキサー「VR-50HD」は、A3サイズの小型筐体に、AVミキサーとしては世界初というUSB3.0でフルHD出力に対応。カメラやPCなどのハイビジョン映像と、マイクからの音声を1台で操作し、収録/ライブ配信から演出までを可能にする。コンソールは右半分がビデオミキサー、左半分がオーディオミキサーと直感的レイアウトで構成されている。

同製品は、4系統12入力マルチフォーマット・ビデオスイッチャー/12chデジタル・オーディオ・ミキサー/USB3.0で非圧縮フルHD1080/60pでパソコンへダイレクト出力/3G/HD/SD-SDI、HDMI、RGB/コンポーネント、コンポジット入力/3G/HD/SD-SDI、HDMI、RGB/コンポーネント、USB出力/合計4レイヤー合成機能/XLR、TRS、RCAステレオ入力/SDI、HDMIのエンベデッドオーディオのミキシング可能(オーディオフォロー付き)/7インチタッチ・モニターで直感操作などの特長とスペックをもつ。

もう一方の新製品である、ロスレス変換の小型高品質コンバーター「VCシリーズ」のうち、スキャンコンバーター「VC-1-SC」は、3G/HD/SD-SDI、HDMI、コンポジット、RGB/コンポーネントの各入力をアップ/ダウン/クロス/スキャンコンバートしてSDI&HDMIに変換する。

マルチフォーマットAVミキサー「VR-50HD」

小型高品質コンバーター「VCシリーズ」製品群

FB FourBit

株式会社
フォービット

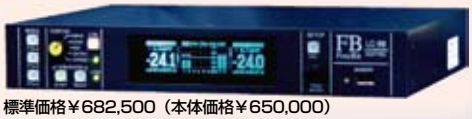
本　　社　〒196-004
東京都昭島市緑町1-11-1
入間事業所　〒358-0014
埼玉県入間市宮寺2720
営業部　TEL：042-935-0551（直通）
TEL：042-934-7720
FAX：042-934-5664
URL　http//:www.fourbit.co.jp

NEW LM-02 ラウドネスメータユニット
視認性にすぐれた3色60ポイントバーグラフメータおよび3色7セグLED
シンプルな基本構成による低価格・高性能
標準価格￥186,900（本体価格￥178,000）

■モーメンタリー/ショートターム表示に加え、入力信号L/Rのレベル表示
■VUドライブ機能、リングバッファ機能搭載
■GPIによる外部リモート制御
■省スペース：W180×H42×D160

LS-02
LM-02用
スイッチBOX
標準価格￥44,100
（本体価格￥42,000）

LC-88 インテリジェントラウドネスコントローラ
平均ラウドネスをリアルタイムで自動コントロール



標準価格￥682,500（本体価格￥650,000）

※仕様、詳細データは弊社営業部までお問い合わせ下さい。

イメージニクス/ビデオトロン

■**イメージニクス**：「IMG. Link シリーズ」は、5C-FB などの同軸ケーブル1 本でHDMI/DVI 信号を30−210 メートル延長可能な同社独自の伝送技術を採用。「CRO-DCE15TX」（送信器）、「CRO-DCE15RX」（受信器）に加わった新製品「CRO-ID18」（分配器）と「DCE-114RX」（延長受信器）を含めた同シリーズのラインアップを紹介。IMG. Link は、延長信号上で信号分配できるのでコストメリットに優れる点が特徴。また延長受信器または分配器をデイジーチェーン接続することにより最長1050 メートル（4 段）の長距離延長に対応する。

このほか、HD シリアルデジタルマトリックススイッチャー「ISX-3232B」（32 入力32 出力）、「ISA-1608A」（16 入力8 出力）、DVI 入力SDI 出力変換器「DRC-S3」、HDMI/DVI 入力SDI 出力変換器「CRO-DSC14」などを出展した。

■**ビデオトロン**：「HDMI/DVI カラーキーヤー」「マトリックススイッチャー」「カラースーパー」などを展示。

3G 対応HDMI/DVI カラーキーヤー「HCK-30」は、HDMI を加工し、キー/フィル出力または本線合成が可能。トリミング、クロマキー、セルフキー、エッジ装飾に対応している。**3G 対応マトリックススイッチャーシリーズ「MTX-70 シリーズ」**は、16 ×8 から4 ×2 までをラインアップ。セレクターでGPI/RS-422 の切り替えができる。**カラースーパー「CK-90E」**は、小型・軽量なDSK 装置で、場所を選ばない1U ハーフサイズの筐体が特徴である。

ティアック/花岡無線

2階フロアの隣接したブースにて出展した両社は、共同開発した「PON 出し SUB SET」を出品。この製品は、TASCAM の CF 対応放送業務用オーディオレコーダー／プレーヤーで、「HS-4000」または「HS-2000」にリモートコントロールユニット「RC-HS32PD」を接続し、音声ファイルのポン出し再生運用時に必要な機器をコンパクトにセットしたラック。

■ **TASCAM 製品**：① **「IF-D4000VN(VGABOX)」**…LAN 経由で「HS-4000」「HS-2000」の画面を表示することが可能。この際に表示したパソコンの画面からマウス操作を行うことも可能。 ② **「HS-4000/HS-2000」**…長年にわたる業務用音響機器開発のノウハウと現場フィールドバックをもとに耐久性、運用効率、操作性、そして高音質を追求した放送業務仕様の 2 × 2 オーディオレコーダー / プレーヤー。（HS-2000 は2 チャンネル） ③ **「RC-HS32PD」**…HS-4000、HS-2000 用のリモートコントロールユニット。64 × 32 ドットマトリクス・カラーバックライトLCD を採用した 16 ポイントのポン出しキーと、100mm フェーダーを 2 系統装備。

■**花岡無線電機製品**：① **「VGABOX 取付け金具」**…「VGABOX」を15 インチモニタの背面に取り付けが可能。 ② **モニターパネル**…1U タイプのモニターパネルで4 つのステレオ入力素材を切替えて音声出力を確認することができる。 ③**PON 出しSUBRACK**…上段に3U、下段に10U のラックマウント実装ができ、PC-HS32PD を設置することができるテーブルが用意されている。RC-HS32PD を使用しない時は、RACK 部に格納することができる。キャスター付きで可動刷ることができる。

SCA サウンドソリューションズ

デジタル・オーディオ・デリバリー・システム（DAD）としてENCO 社のラジオ用自動番組放送装置、オーディオファイル、制御装置などを導入事例とともに紹介。

ラジオ局向けとして各国で1000 セット以上の導入実績を持つAXIA（アクシア）社のIP ネットワーク対応オーディオミキサー「iQ」、及び自社開発機器の無音検知装置、音声緊急割り込みスイッチャ、昨年より取り扱いを開始した劇場・イベント会場システム向けネットワーク型インターカムシステム「Green-Go」などを出展した。（写真下）

AXIA 社製ラジオ局・ポストプロダクション向け IP ネットワーク対応 デジタルミキサー「iQ」

ナックイメージテクノロジー

デジタルシネカメラ「ALEXA PLUS」およびLED 照明機器などの機材を展示。本展においては、「ALEXA PLUS 4 :3」にOPTIMO DP 16-42mm/T2 を装着した状態にて出品した。

ALEXA PLUS は、フィルムスタイルデジタルカメラ「ALEXA」シリーズのアップグレードモデルで、ワイヤレスリモートシステム（WRS）によりフォーカス / ズーム / アイリスや REC/STOP の無線 / 有線制御が可能。レンズデータシステム(LDS) により、ビューファインダーとモニターアウトにレンズデータおよび被写界深度を表示することができ、データをプロレジや ARRIRAW のメタデータに反映できる。

昭特製作所

2 ステージペディスタル「TP200」をはじめ、小型カメラ向けに設計された「SP シリーズ」をメインに出展。特にSP100 は業務用ENG カメラ向けに設計されたシンプルな操作性を特徴とする三脚システムで、ボディーは手に優しい流線形のデザイン。2 段階トルク調整機構を採用し操作はシンプル。各部のレバーやノブは青で表現し、重要操作部であることを強調しながらも視覚的に落ち着きを与えるように配慮してある。より安全性を求めるレバー類は、赤にすることで注意を促す親切設計。100mm ボールを採用し、専用のENG 三脚と組み合わせることで高い剛性感を生みだし繊細なカメラワークをサポートする。

テレビ局用カメラの雲台・三脚・ペデスタルの製造に長年の経験を持つ同社が初めて本格的に挑戦した業務機SP100 は、確実な性能と優れたコストパフォーマンスが両立している。

三　友

今年は『伝送』をテーマに三木楽器、ブロードデザインと協力し、3社で展示出展。

Avid の最新バージョン「Media Composer 7」と「Pro Tools 11」を広いスペースにデモ展示したほか、RadiantGrid のテクノロジーにより独自分散技術により超高速エンコードを実現した、新製品マルチフォーマット対応次世代トランスコーダー「WohlerCorder」(ウォーラーコーダー)を紹介した。(写真左下)

さらに、TERADEK 社のBOLT をメイン機器として紹介したほか、会場にて1F フロアーフロアーの三友ブースから2F にある特設のプロジェクションマッピングコーナー（P.6 写真を参照)の間をワイヤレスにて映像伝送を行った。

ブロードデザイン

本年4月に誕生したばかりの同社では、同展にも初出展。

ホンダN BOX+ の荷物スペースに2.8KVA の発電機を搭載した「N BOX+ 発電車」をパネル展示。ポータブルからラック運用まで幅広く使える、3G 対応2ch 分配器「DDA-C30」、LTC ゼネレーター「LTC-C30」、3G 対応4x1 セレクター「SEL-C41」などのCompact シリーズ。(写真下)

ファイルベース・プレーヤー「FP-1000」などを出品した。

報映産業

最先端のファイルベースシネマカメラから簡易HD 中継システム、ファイルベースでのノンリニア編集・MA 作業に加えて素材共有からメディアアセットマネジメント、アーカイブまで同社ならではのファイルベース・メディアワークフローを多岐にわたって紹介した。

■**収録・編集・MA・送出ワークフロー**：さらに進化したAvid 社の編集ワークフローを紹介。ノンリニア編集システム「Avid Media Composer Nitris DX」、共有ストレージ「ISIS 5000」、収録&送出サーバー「AirSpeed 5000」、ファイル管理システム「Interplay」、システム「Pro Tools HDMA」

■**アーカイブ**：同社推奨の2つのLTO アーカイブシステムを体感。LTO アーカイブ「Cache-A」、アセットマネージメント「CatDV」、NAS ファイルサーバー「Synology」、LTO アーカイブ&アセットマネージメントシステム「Proxsys PA」

■**インジェスト&ファイル変換**：今までの悩みの種を解消するインジェスト&ファイル変換システムの紹介。SDI インジェストシステム「MOG Technologies mxf SPEEDRAIL S1000」、ファイル変換システム「Telestream Episode」

アビッド・テクノロジー

2013NAB ショーで発表した最新バージョンの「Media Composer 7」と「Pro Tools 11」を発表した同社では、報映産業、フォトロン、池上通信機、東通インターナショナル、タックシステム、共信コミュニケーションズ、三木楽器の各代理店ブースで最新のAvid ソリューションをデモ展示を行った。

また、セミナールームにおいて、2日間にわたって制作/ ポストプロダクション向けと報道向けのセミナー向けに2 種類のPost NAB セミナーを開いた。国内での発表直後ではあるが、本展ではじめてその姿が見れることとなった。

フォトロン

本展では初めて、3D スポーツ解説映像制作システム「Vizrt VizLibero」を実機展示。サッカー、野球などのメジャースポーツにバーチャル3D 解説グラフィックを簡単な操作で短時間に制作できる専用システムが注目を浴びた。

また、"EVS x Avid で実現するファイルベースプロダクション" をコンセプトに、「Avid MediaComposer」「EVS XT3」なども展示した。

テクノハウス

海外メーカー製の映像関連機器、プロオーディオ関連機器を、今年のNAB2013 にて発表された新製品も含め多数展示。

ConvergentDesign 社の非圧縮 4k 対応SSD レコーダー「Gemini 4:4:4」、Ensemble Designs 社の3G/HD コンパクトルーター「BrightEye NXT430」と3G 対応スキャンコンバーター「Bright Eye Mitto」、DHD 社のデジタルオーディオデスクトップミキサー「Series 52/SX」、Yellowtec 社のシステムマイクアーム「m!ka」などを紹介した。

共信コミュニケーションズ

日本初上陸SGO 社4 Kリアルタイム編集機「MISTIKA」、GbLabs 社超高速 NAS ストレージ「SPACE」ほか、映像制作業界で活躍している各種システム／新製品を紹介。

また、コンテンツ制作ソリューションでは各種ノンリニアから、共有ストレージによるデータ共有コンテンツ管理・アーカイブなど、広範囲にわたるシステムインテグレーションの紹介も行った。

SGO 社MISTIKA（ミスティカ）は、2D/S3D、HD/4K/8K+ 解像度に対応。編集・合成・修復・ペイントからエフェクト・テロップ・フィニッシングを同一のタイムライン操作で仕上げることが出来るフレキシブルなトータルツールボックス。

そのほかタッチパネル対応の議会中継システムやFairlight 社小型コントローラー「XSTREAM」の紹介を行った。